

# アンケート調査による 子育て世代の居住地選択に関する研究

篠原 将太<sup>1</sup>・藤田 素弘<sup>2</sup>

<sup>1</sup>学生会員 名古屋工業大学大学院 社会工学専攻 (〒466-8555愛知県名古屋市昭和区御器所町)

E-mail: s.shinohara.312@stn.nitech.ac.jp

<sup>2</sup>正会員 名古屋工業大学大学院 教授 工学研究科 (〒466-8555愛知県名古屋市昭和区御器所町)

E-mail: fujita.motohiro@nitech.ac.jp

近年、地域間格差により特定の地域に多くの人が集まり、その他の地域では人口減少が進んでいる。人の移動は、地理的な条件などが強く関係していることは明らかであり、人口減少に悩む市町村にとって、住民が居住地を選択する上でどのようなことを重要視しているかを知ることは重要である。そこで、本研究では子育て世代の居住地選択と地域特性の関係について分析、明確化するために、愛知県内の昭和区、長久手市、瀬戸市の3地域で、乳幼児から大学生までの子供がいる子育て中の親世代178名を対象にアンケート調査を行った。各項目の満足度と重要度を地域ごとに比較した結果、住んでいる場所の近くに商業施設があること、公園施設の安全性といった利用のしやすさに満足度の差が確認された。

**Key Words** :population decline, Declining birthrate and aging population,city planning, Parenting

## 1. はじめに

近年、地域間格差(人口、産業、財政等)により特定の地域に多くの人が集まり、その他の地域では人口減少が進んでいる。人の移動は、地理的な条件、家族構成、労働条件などが強く関係していることは明らかであり、人口減少に悩む市町村にとって、住民が居住地を選択する上でどのようなことを重要視しているかを知ることは重要である。そして、転出者を減らし転入者を増やすことや人口の自然増加を促進することのような「魅力ある街づくり」が現在の地方自治体に必要となっている。

そこで、本研究では子育て世代の人にアンケート調査を行うことにより居住地選択と地域特性の関係について分析、明確化することを本研究の目的とする。

## 2. アンケート調査の概要

アンケート調査は、乳幼児から大学生までの子供がいる子育て中の親世代を対象に行った。アンケートの実施地概要を表-1にまとめる。調査項目は、以下の4つから構成される。

表-1 アンケートの実施地概要

年	日		場所		時間	形式	データ数
2018	12月19日	12月20日	吹上公園	昭和区	14:00-17:00	ヒアリング形式	27
2018	12月21日		川名公園	昭和区	14:00-17:00	ヒアリング形式	18
2018	12月22日	12月23日	愛・地球博記念公園内 愛知県児童総合センター	長久手市	9:30-16:00	ヒアリング形式	40
2019	1月8日		下山児童館	長久手市	9:30-11:00	イベント時配布	11
2019	1月9日		長久手市児童センター	長久手市	9:30-11:00	イベント時配布	18
2019	1月9日		長久手市西児童館	長久手市	10:30-12:00	イベント時配布	3
2019	1月9日		市が洞児童館	長久手市	9:30-11:00	イベント時配布	4
2019	1月11日		長久手南児童館	長久手市	9:30-11:00	イベント時配布	15
2019	1月11日		上郷児童館	長久手市	9:30-11:00	イベント時配布	4
2019	1月18日	1月26日	せとっ子ファミリー交流館	瀬戸市	9:30-12:00	ヒアリング形式 イベント時配布	38

① 個人属性(性別、属性、年齢、子供の年齢、家族の人数、家の所有形態、転勤の可能性、通勤状況、住んでいる地域)

② 質問21項目の重要度・満足度：5段階評価  
5：重要(満足)，4：やや重要(やや満足)，3：どちらでもない，2：あまり重要でない(やや不満)，1：重要でない(不満)

③ 記述式の質問4項目

④ 住んでいる地域の総合満足度：5段階評価

質問項目は表-2に示す。調査を行う主な地域の特徴として昭和区は自然増加数が減少していて他地域からの流入によって人口増加している。長久手市は人口の自然増加数が大きいため、若い子供の多い街である。瀬

表-2 質問項目

質問項目		略称	満足度	重要度	記述	
交通に関する質問	① 世帯主の職場への通勤の利便性について	世帯主職場	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	② 配偶者の職場への通勤の利便性について	配偶者職場	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	③ 普段使う公園の移動しやすさ	公園移動	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない	所要時間	( )分
	④ 普段使う公園の利用しやすさ(遊具の安全性など)	公園安全性	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	⑤ 公共交通の利便性(鉄道、バスなど)の利用しやすさ	公共交通利便	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	⑥ 自動車移動での移動のしやすさ(渋滞など)	自動車移動	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	⑦ お子様の登校時間	登校時間	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない	所要時間	小学校( )分 中学校( )分 高校( )分
	⑧ 登下校時間の通学路の交通量の多さなどの状況	登校時間交通量	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	⑨ 都心へのアクセス	都心アクセス	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	⑩ 子育てを手伝ってくれる実家との距離	実家距離	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない	所要時間	約( )時間( )分
子育てに関する質問	① 地域の保育園・幼稚園の数について	保育園数	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	② 学校の評判について	学校評判	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	③ 学校の規模について	学校規模	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない	規模	小学校( )クラス 中学校( )クラス
	④ 文化的環境(図書館、博物館など)の利用について	文化的環境	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	⑤ 周りに子育て世代が多いこと	子育て世代の多さ	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	⑥ 地域の治安について	地域の治安	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	⑦ 地域の評判について	地域の評判	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	⑧ 住宅費(家賃など)	住宅費	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	⑨ 大型の商業施設(デパートなど)の存在	大型商業施設	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	⑩ 普段の買い物をする施設(スーパー、ショッピングセン)	普段買い物施設	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	⑪ 住居地域の立地条件(地震、津波など)	立地条件	5:満足⇔1:不満足	5:重要⇔1:重要でない		
	総合満足度	総合満足度	5:満足⇔1:不満足			

戸市は人口減少と少子高齢化が進行している地域である。調査方法は、回答者に声をかけてアンケート用紙を記入してもらいヒアリング形式と、施設で行われるイベントの参加者に受付時に配布して、終了後回収する形式で行った。

### 3. アンケート結果分析

回答者の属性について図-1 に示す。回答者は女性の割合が高く、年齢は 3, 40 代が多い構成となった。また、乳幼児の子供がいる回答者が約半数を占め子供の年齢が比較的若い回答者が多かった。比較分析は、昭和区、長久手市、瀬戸市で行った。データ数は全体で 178 件であり、内訳は昭和区 (30 件)、長久手市 (53 件)、瀬戸市 (42 件) その他地域 (53 件) である。表-3 に地域別の重要度、満足度、総合満足度を示す。表-3 から、総合満足度はどの地域も高く、各項目の平均値は昭和区の満足度が高く長久手市の重要度が高いことがわかる。重要度の平均値が高いためどの項目も地域差がなく重要視されていると考えられる。

全体の平均は満足度は 3.73、重要度 4.233 であった。上位の項目は満足度は「子育て世代の多さ」「地域の評判」「公園移動」の順で高かった。重要度は「地域の治安」「立地条件」「普段買い物施設」の順で高かった。重要度に注目すると、住む地域の安全性を重要視していると考えられる。

#### (1) CSポートフォリオ分析

##### a) 昭和区

昭和区の満足度は「配偶者職場」「子育て世代の多さ」「公園安全性」の順で高かった。平均値も 4.079 と比較した地域の中で一番高い総合満足度も 4.5 なので評価

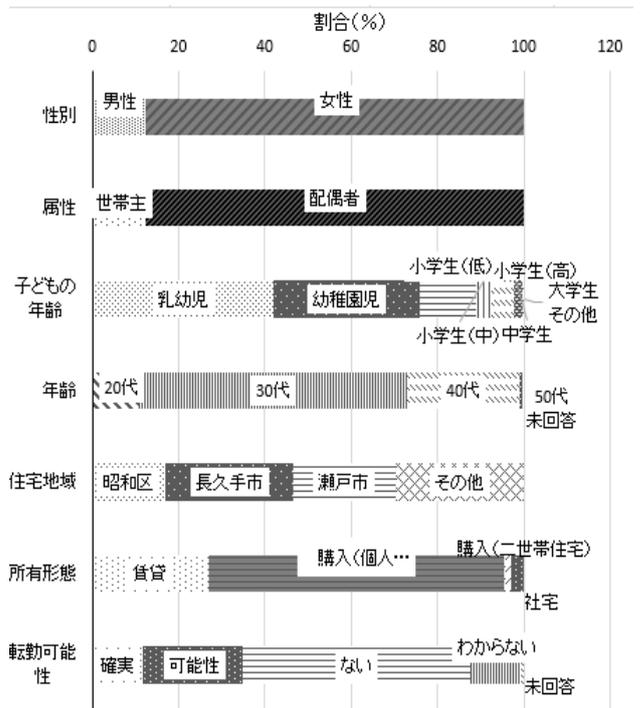


図-1 回答者の属性

表-3 地域別重要度・満足度・総合満足度の順位

順位	地域	平均値(重要度)	順位	地域	平均値(満足度)	順位	地域	総合満足度
1	長久手市	4.318	1	昭和区	4.079	1	昭和区	4.5
2	昭和区	4.255	2	長久手市	3.768	2	長久手市	4.412
3	瀬戸市	4.228	3	瀬戸市	3.487	3	瀬戸市	3.902
	全体	4.233		全体	3.73		全体	4.219

の高い地域だとわかる。図-2から「公共交通利便性」が重点維持項目にあたる第一象限にある。昭和区の人々の主な通勤手段が電車などの公共交通であるため「世帯主職場」「配偶者職場」の満足度が高い結果に繋がったと考えられる。しかし、「実家距離」の満足度が最下位であった。昭和区は他の地域からの転入者が多く、実家が遠

くて頼ることができない可能性が考えられる。

b) 長久手市

長久手市の満足度は「公園移動」「子育て世代の多さ」「地域の評判」の順で高かった。総合満足度も4.412と満足度の高い地域であるといえる。図-3から第一象限に「公園移動」「自動車移動」があるので、移動のしやすい街であると思われる。しかし、重点改善項目である第四象限に「保育園数」、改善項目である第三象限に「登校時間」「学校規模」があり、子育て環境に対する満足度はやや低い結果になった。自由意見では、「待機児童が増えている」、「働きにいけない」といった意見もあったので人口増加に対応できるように施設数を増やす必要があると考えられる。

c) 瀬戸市

瀬戸市の満足度は「立地条件」「子育て世代の多さ」「地域の治安」「地域の評判」の順で高かった。図-4から「公共交通利便」や「都心アクセス」が第三象限にあった。鉄道が市の西側にしかないため市内でも利便性に差が生じている。バスの本数が少ないなどの問題もあると考えられる。瀬戸市は車社会であるが、使われる道路が決まっていることから渋滞といった問題が起りやすく、渋滞を避けるために子供の通学路を抜け道として利用する人がいる。そのため、子供の通学に不安を感じる意見が多い。「公園安全性」が第四象限にあり自由意見でも「砂場が整備されていない」などの意見もあったので改善の余地があると考えられる。

満足度が高い昭和区、長久手市と瀬戸市を比較すると「普段買い物施設」「公園安全性」の満足度の差が大きかった。また、どの地域も「公園安全性」が「公園移動」より重要度が高かった。このことから子育てをする上で商業施設が近くにあることや施設の安全性が魅力的な街に繋がると思われる。

(2) 単回帰分析

本アンケートでは、以下の項目で記述式の質問を行った。

- ・ 普段利用する公園までの所要時間
- ・ 子供の小学校、中学校、高校までの所要時間
- ・ 子育てを手伝ってくれる実家への所要時間

地域差は少ないと考えられるため、全地域での回答者を対象に散布図を作成し分析を行う。

a) 公園移動時間と満足度の関係

普段利用する公園までの時間(分)と「公園移動」の満足度との散布図を図-5に示す。R<sup>2</sup>値が0.4003なので、相関は高くない。傾向として所要時間が10分以内だと「満足」「やや満足」で10分を超えると「やや不満」「不満」という傾向がある。これは坂道が多い、階段が

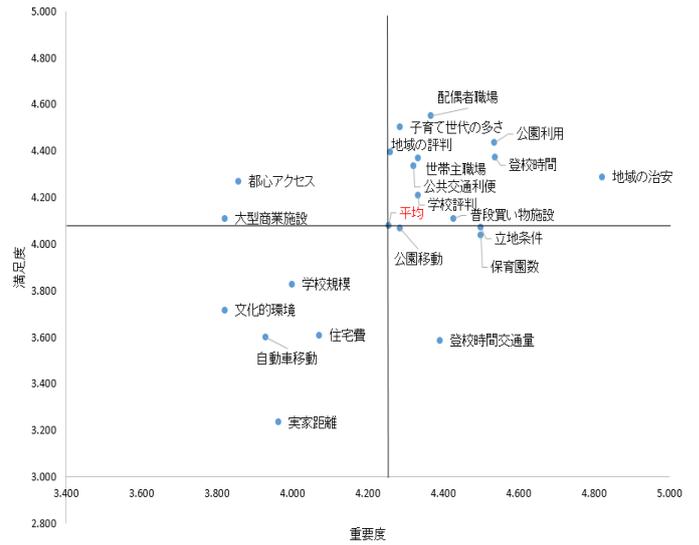


図-2 昭和区のCSポートフォリオ

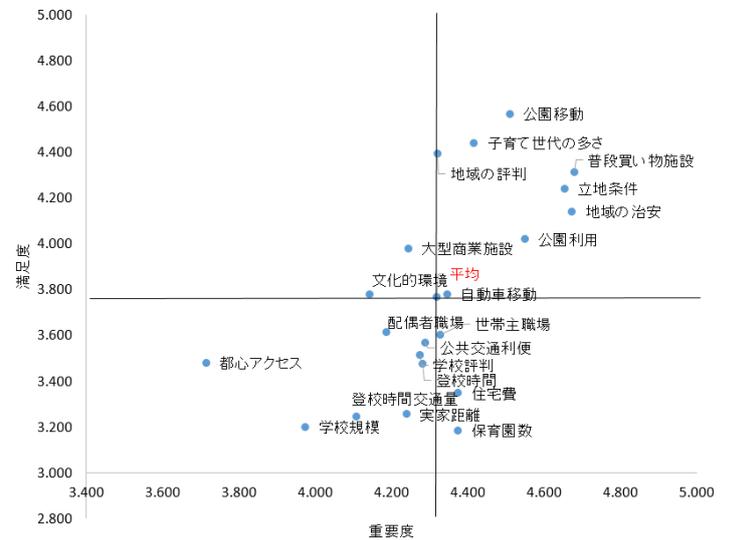


図-3 長久手市のCSポートフォリオ

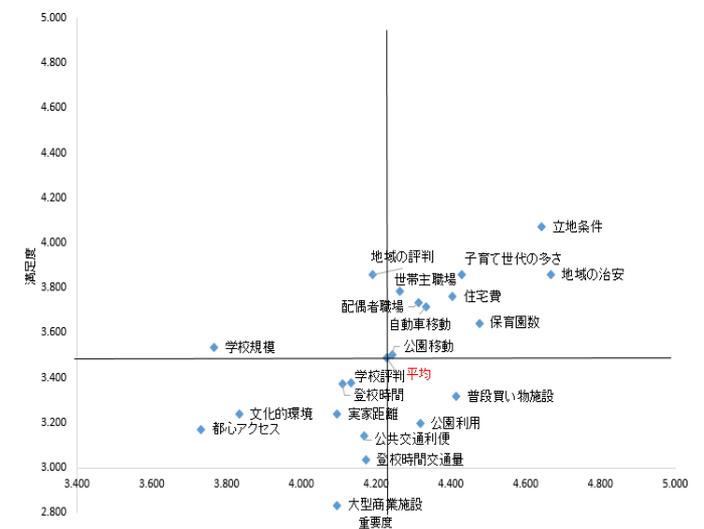


図-4 瀬戸市のCSポートフォリオ

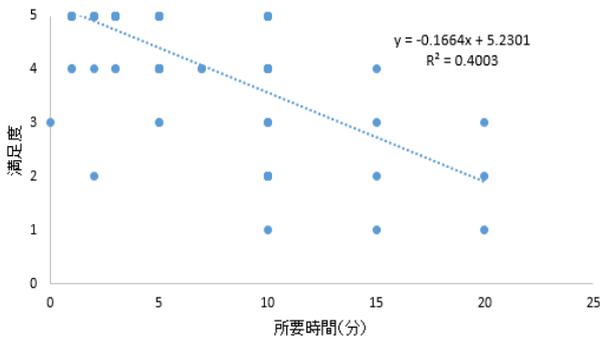


図-5 普段利用する公園までの公園(分) -公園時間

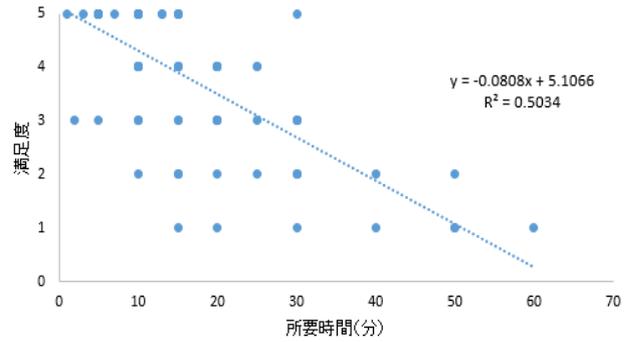


図-6 小学校までの登校時間(分) -登校時間

あるといった地形といった要因が考えられる。

**b) 小学校までの時間と満足度の関係**

小学校までの登校時間(分)と、「登校時間」の満足度との散布図を図-6に示す。R<sup>2</sup>値が0.5034。傾向として登校時間が30分以内だと「満足」「やや満足」が多く、30分を超えると「不満」「やや不満」が増加するといえる。公立小学校・中学校の適正規模・適正配置などに関する手引き<sup>3)</sup>から小学校の通学距離はおおよそ4km以内と定められているが、歩く速さを分速80mとすると4km地点からは学校まで50分かかることになる。よって、距離に応じてスクールバスを導入などの対策が必要だと考えられる。

**c) 実家までの所要時間と満足度の関係**

実家までの所要時間(分)と実家距離の満足度との散布図を図-7に示す。R<sup>2</sup>値が0.3122と高くない。これは親が県外に住んでいるなど元々期待していないなどが考えられる。

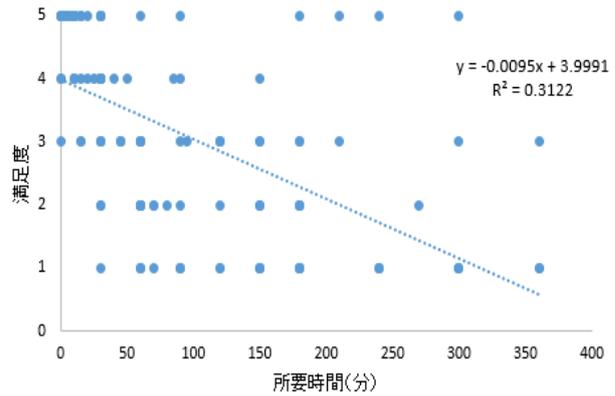


図-7 実家までの時間(分) -実家距離

**(3) 共分散構造分析による総合満足度評価**

アンケート調査における総合満足度がどのような要因に影響を受けているのか共分散構造分析を利用して解析する。使用する観測変数は、アンケート項目の満足度を使用した。潜在変数は、「子育ての生活利便性」と「交通利便性」をそれぞれの観測変数とともに設定した。様々なモデルを検討した結果、最も当てはまりの良いモデルを図-8に示す。本モデルの適合度指標はGFIが0.909、AGFIが0.843と比較的に良好な値を示している。本モデルは次のように考察できる。

総合満足度への直接的な影響は潜在変数である「子育ての生活利便性」「交通利便性」、観測変数である「地域の評判」が影響していた。影響の大きさは「子育ての生活利便性」「地域の評判」「交通利便性」の順で大きかった。

「子育ての生活利便性」の観測変数を見ると、「世帯主職場」「普段買い物施設」が「公園安全性」「登校時間」よりも関係が強い。よって、子育てに関連する施設

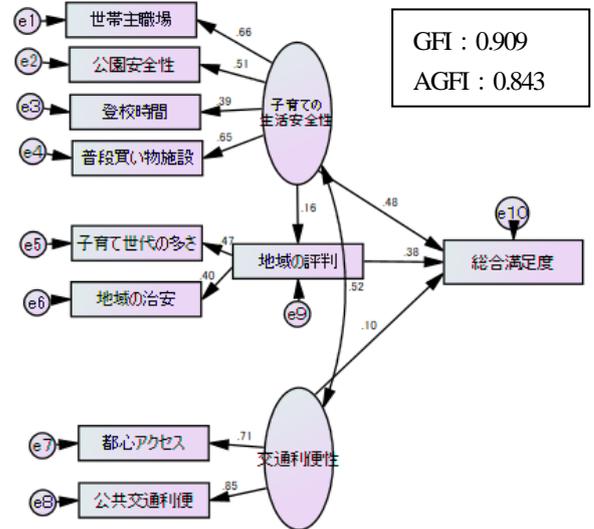


図-8 総合満足度の共分散構造分析モデル

もさることながら、日々の生活に関連する項目が「生活利便性」に強く影響すると考えられる。また、CSポートフォリオ分析での遊具の安全性や子供の見守りのしやすさを示す「公園安全性」が「公園移動」よりも重要度が高いことや、図-6で示した登校時間が短いほど満足度が大きくなる傾向から育児において環境の安全性を街に求めていると考えられる。

「地域の評判」をみると、評判の良い地域に住んでい

る安心感などが総合満足度に繋がると考えられる。また、地域評判の高い地域では流入人口が増加することで体感治安の向上や同じ子育て世代と知り合う機会が増加すると考えられる。

「交通利便性」は総合満足度に直接与える影響は、「生活利便性」「地域の評判」に比べて小さかった。本アンケートの回答者は子供の年齢が若い回答者が多く、乳児や幼児の子供がいる人は生活範囲が狭く公共交通を利用する頻度が低いので、総合満足度に直接的に与える影響が小さいと考えられる。一方で、「子育ての生活利便性」との相関があるので「子育ての生活利便性」の向上に影響していると考えられる。

#### 4. まとめ

本研究およびアンケート調査では、居住地選択をする上で重要だと考えられる21項目の重要度・満足度を調べCSポートフォリオ分析、単回帰分析、共分散構造分析を行い、地域別に比較することで優れている点や改善すべき点を洗い出すことができた。公園など子育てに関わる施設は近くにあることよりも安全性などの利用性が重要視されていることがわかった。また、評判の良い地域

に住んでいるといった安心感から総合満足度の向上に繋がると分かった。今後の課題としては、分析の精度を高めるための適切な質問項目の検討、選定。また、調査地を増やし様々な地域特性を調査、比較する必要がある。

**謝辞：**本研究を遂行するにあたり、アンケートの実施に関して昭和区、長久手市、瀬戸市の都市計画課にご協力いただいた。ここに厚く感謝の意を表します。

#### 参考文献

- 1) 中島直人, 村山顕人, 高見淳史, 樋野公宏, 寺田徹, 廣井悠, 瀬田 史彦:「都市計画学 変化に対応するプランニング」
- 2) 小塩 真司: SPPSとAmossによる心理・調査データ解析
- 3) 公立小学校・中学校の適正規模・適正配置などに関する手引き

## A STUDY ON RESIDENTIAL AREA SELECTION FOR CHILD-RAISING GENERATION BY QUESTIONNAIRE SURVEY

Shota SHINOHARA and Motohiro FUJITA

In recent years, due to regional disparity, many people gather in a specific area, and the population is decreasing in other areas. It is clear that the movement of people is strongly related to geographical conditions. Therefore, it is important for the municipalities suffering from population decline to know what the inhabitants attach importance to when choosing a place of residence. In this study, in order to analyze and clarify the relationship between the place of residence of the child-raising generation and the regional characteristics, child-rearing with children from infants to college students in Showa City, Nagakute City, and Seto City in Aichi Prefecture. A questionnaire survey was conducted on 178 parent generations. As a result of comparing the satisfaction and importance of each item by region, the difference in satisfaction was confirmed in the ease of use such as the presence of commercial facilities near the place where they live and the safety of park facilities.